



JA三井リース

2018年3月期 第2四半期 JA三井リース連結決算の概況

※本資料は情報提供のみを目的としたものであります。また本資料には現時点で入手可能な情報に基づく将来予測値が含まれておりますが、実際の業績は将来の様々な要因により変動することがありますのでご注意ください。

1. 決算概況
2. 損益の状況
3. バランスシートの状況
4. 営業資産残高の状況
5. 営業の状況 契約実行高
6. 資金調達の状況
7. 2017年度TOPICS
8. 中期経営計画概要

1. 決算概況

■ 決算サマリー

(単位:億円)

	'15年9月期	'16年9月期	'17年9月期	前年同期比 (額)	前年同期比 (率)	'18年3月期(計画)
売上高	2,066	2,114	2,176	+61	+2.9%	4,316
営業利益	148	106	99	△6	△6.4%	229
経常利益	161	156	99	△56	△36.4%	229
親会社株主に帰属する 四半期純利益	102	120	72	△48	△40.1%	150
契約実行高	2,607	2,934	2,863	△71	△2.4%	

	'16年3月末	'17年3月末	'17年9月末	前期末比 (額)	前期末比 (率)
総資産	15,577	15,872	16,094	+222	+1.4%
営業資産	14,364	14,616	14,846	+230	+1.6%
有利子負債	12,351	12,379	12,794	+414	+3.3%
純資産	1,943	2,052	2,050	△1	△0.1%
自己資本比率	12.3%	12.7%	12.5%	△0.2pt	-

2. 損益の状況

■ 比較損益計算書

(単位:億円)

	'15年9月期	'16年9月期	'17年9月期	前年同期比
売上高	2,066	2,114	2,176	+61
リース	1,720	1,817	1,859	+41
割賦	208	188	204	+15
ファイナンス	65	60	68	+8
その他	71	47	44	△3
売上利益	312	276	266	△9
リース	205	185	173	△12
割賦	17	15	15	△0
ファイナンス	64	59	66	+7
その他	24	14	10	△3
資金原価	58	55	53	△1
売上総利益	253	220	212	△8
販管費	105	114	112	△1
一般経費	117	118	120	+1
のれん償却	0	0	0	△0
貸倒引当金繰入	△13	△5	△8	△2
営業利益	148	106	99	△6
営業外損益	12	49	△0	△50
経常利益	161	156	99	△56
特別利益	5	22	0	△22
特別損失	1	0	0	△0
税引前利益	165	178	99	△79
法人税等	59	56	26	△29
当期純利益(*1)	102	120	72	△48

(*1) 親会社株主に帰属する四半期純利益の金額を表示

主な内容

- **営業利益**
前期の営業資産売却益計上等の反動もあり、前期比6億円の減少。
- **経常利益**
前期の為替変動に伴う為替差益の反動もあり、前期比56億円の減少。

3. バランスシート of 状況

■ 比較貸借対照表(主要項目)

(単位:億円)

	'16年3月末	'17年3月末	'17年9月末	前期末比
総資産	15,577	15,872	16,094	+222
現預金	308	385	341	△44
営業資産	14,364	14,616	14,846	+230
リース	9,649	9,881	9,989	+107
割賦	1,343	1,278	1,256	△21
ファイナンス	3,318	3,353	3,474	+120
その他	52	101	125	+23
有利子負債	12,351	12,379	12,794	+414
短期	6,693	7,504	7,478	△25
長期	5,658	4,875	5,315	+439
純資産	1,943	2,052	2,050	△1
株主資本	1,925	2,007	2,018	+10
その他の包括利益累計額	△6	3	△6	△10
非支配株主持分	24	40	39	△1
自己資本比率(*1)	12.3%	12.7%	12.5%	△0.2pt

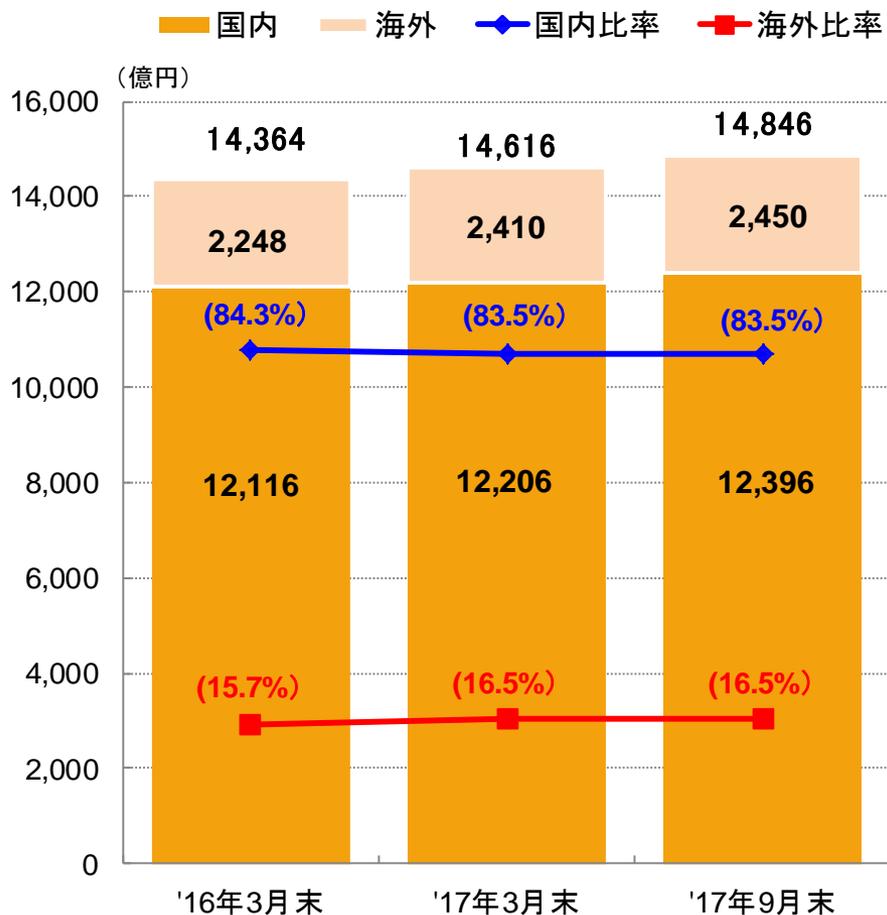
(*1) 自己資本比率:(純資産-非支配株主持分)÷総資産

主な内容

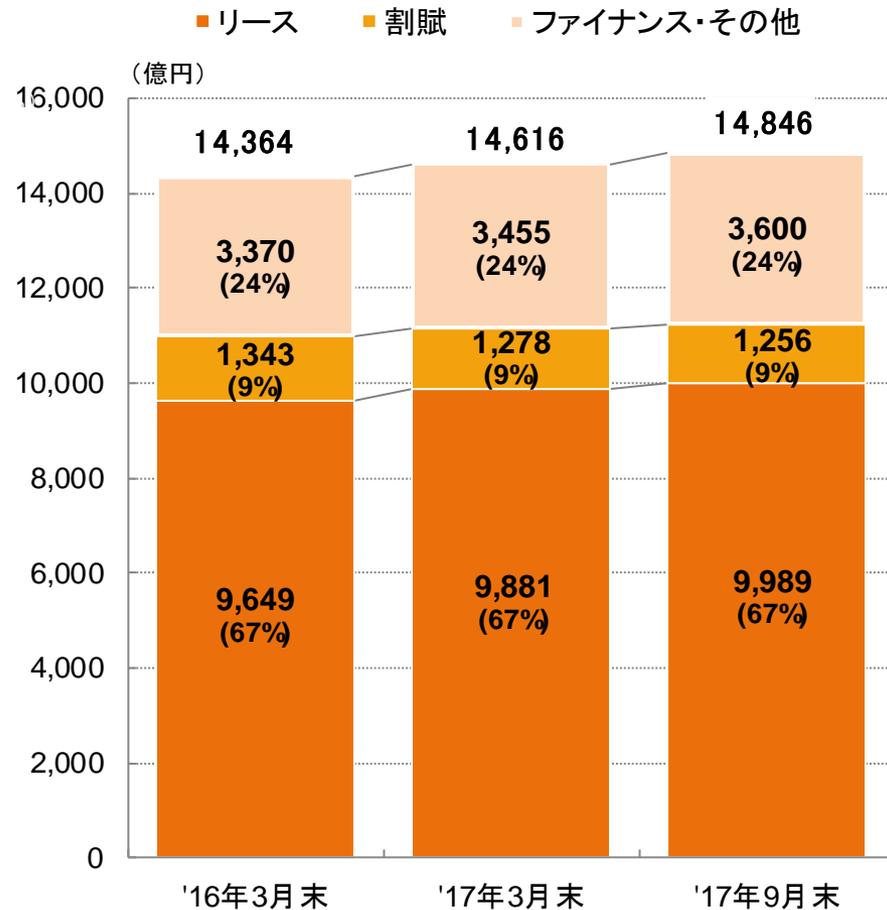
- 営業資産残高
 - 機械分野・流通分野・エリア分野向け取組みなどが寄与し、リース資産は前期末比107億円の増加。
 - 国内外大型案件の取組みなどにより、ファイナンス資産は前期末比120億円の増加。

4. 営業資産残高の状況(1)

■ 国内・海外別営業資産残高



■ 契約種別営業資産残高 (契約種別シェア:%)



4. 営業資産残高の状況(2)

モノ・事業・金融起点ビジネス

- 「モノ」の市場価値・利用価値に着目したビジネス
- 事業開発型ビジネス・金融起点ビジネス
- 半導体・輸送・機械・環境・医療・不動産等の専門営業部門
- 海外現地法人・海外支店

独自性発揮・成長分野

- 当社の独自性が発揮できる食農分野
- 今後の成長が期待できるICT分野
- 農林水産・流通・ICTなどの専門営業部門

国内エリア分野

- 本社専門部の専門性と国内津々浦々の営業拠点を活用したビジネス
- エリアの各営業部門
- 国内関係会社

事業領域別営業資産残高の推移

(単位:億円, %)

上段:営業資産残高 下段:構成比	'17年3月末	'17年9月末	前期末比
営業資産残高	14,616	14,846	+230
モノ・事業・金融起点ビジネス	6,114 41.8%	6,302 42.5%	+187
独自性発揮・成長分野	3,035 20.8%	3,094 20.8%	+59
国内エリア分野	5,348 36.6%	5,385 36.3%	+37
その他営業資産、調整・消去	117	64	△53
(内、海外営業資産残高)	2,410	2,450	+39

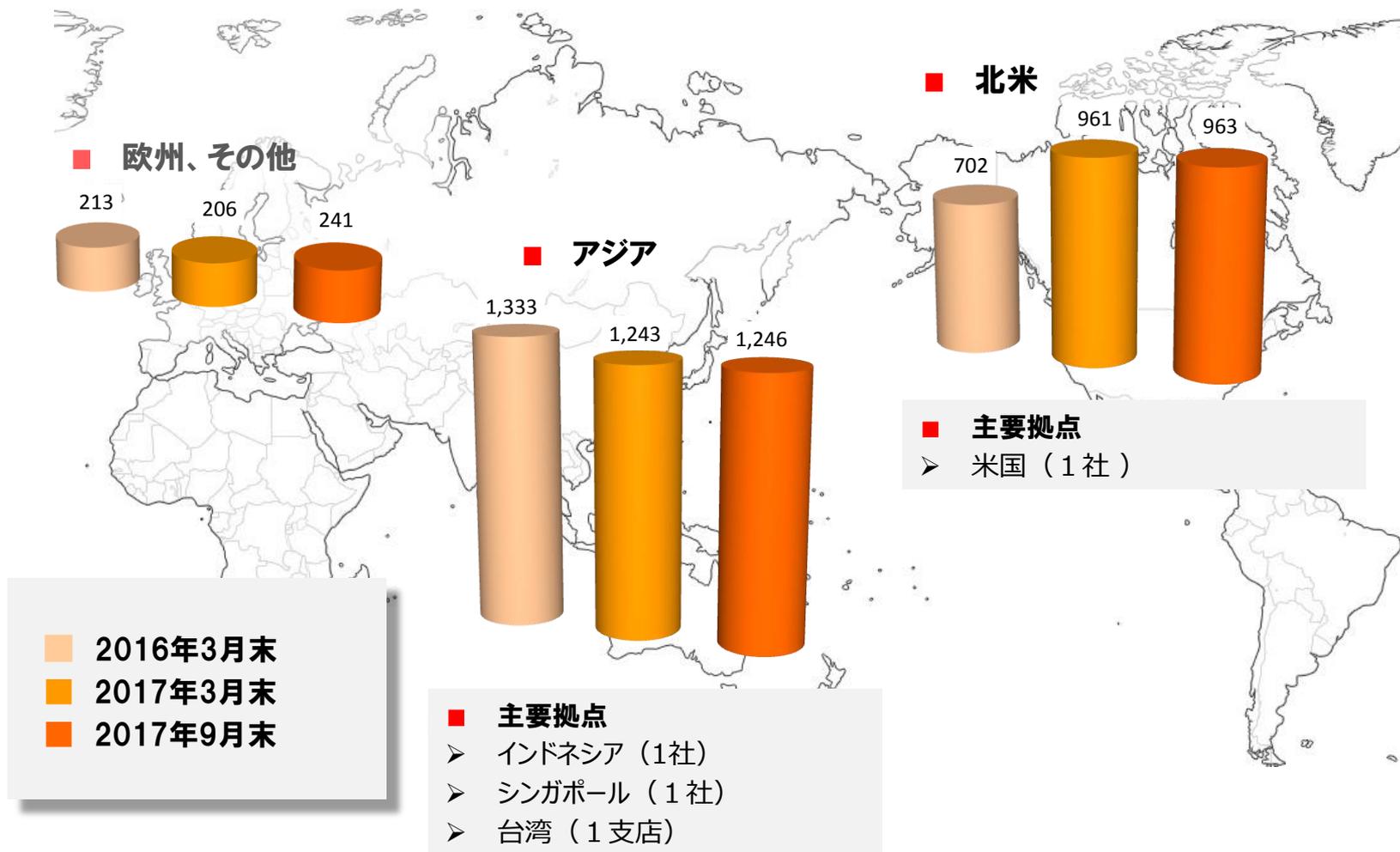
4. 営業資産残高の状況(3)



JA三井リース

■ 海外地域別営業資産残高(2017年9月末現在)

(単位:億円)



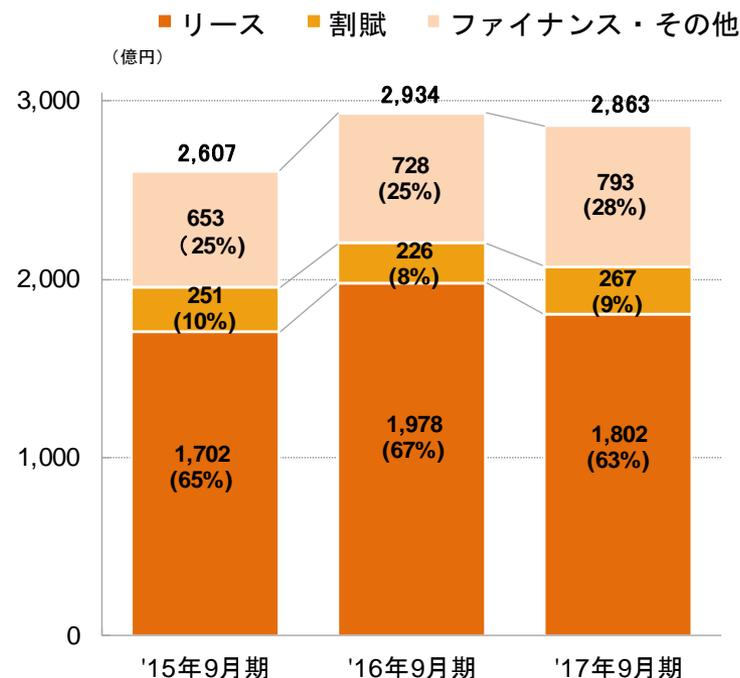
5. 営業の状況 契約実行高

■ 契約実行高

(単位: 億円)

		'15年9月期	'16年9月期	'17年9月期	前期比 増減
リース	商業及び サービス業用設備	224	234	311	+77
	情報通信機器 ・事務機器	355	327	497	+169
	産業機械・工作機械 ・土木建設機械	584	582	478	△104
	輸送機器	183	466	231	△234
	医療機器	53	52	65	+13
	その他	300	315	217	△97
リース 計		1,702	1,978	1,802	△176
割賦		251	226	267	+40
ファイナンス		588	667	751	+84
その他		64	61	42	△19
合計		2,607	2,934	2,863	△71

■ 契約実行高の推移 (契約種別シェア: %)

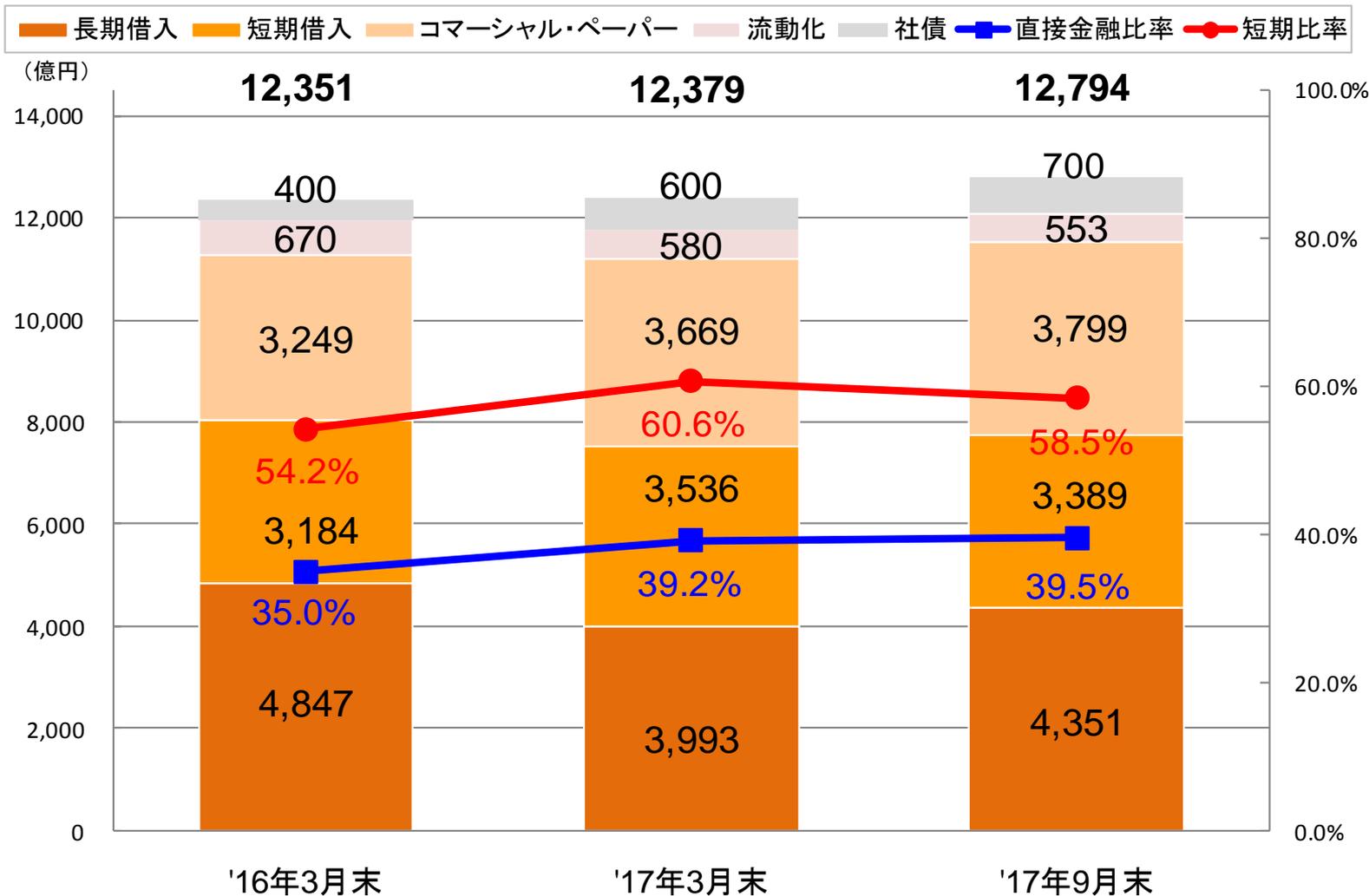


主な内容

- リース契約実行高
ICT分野向け取組みなどが堅調に推移したが、アグリ分野の前期反動もあり、前期比減少。
- ファイナンス契約実行高
ICT・半導体分野向け大口案件などが寄与し、前期比増加。

6. 資金調達状況(1)

■ 資金調達構造(期末残高の推移)



※短期借入には一年内返済予定長期借入金を含む

6. 資金調達状況(2)



JA三井リース

■ 資金調達残高推移

(単位:億円)

	'16年3月末		'17年3月末		'17年9月末		前期末比
		構成比		構成比		構成比	
間接調達	8,031	65.0%	7,529	60.8%	7,741	60.5%	+ 211
社債	400	3.3%	600	4.9%	700	5.5%	+ 100
CP	3,249	26.3%	3,669	29.6%	3,799	29.7%	+ 130
流動化	670	5.4%	580	4.7%	553	4.3%	△27
直接調達	4,319	35.0%	4,850	39.2%	5,052	39.5%	+ 202
合計	12,351	100.0%	12,379	100.0%	12,794	100.0%	+ 414

■ 長短資金調達推移

(単位:億円)

	'16年3月末		'17年3月末		'17年9月末		前期末比
		構成比		構成比		構成比	
短期(*1)	6,693	54.2%	7,504	60.6%	7,478	58.5%	△25
長期	5,658	45.8%	4,875	39.4%	5,315	41.5%	+ 439
合計	12,351	100.0%	12,379	100.0%	12,794	100.0%	+ 414

(*1) 一年以内返済予定の長期債務を含む

■ 資金コスト推移

(単位:億円)

	'15年9月期	'16年9月期	'17年9月期	前期比
資金コスト(*2)	59	56	55	△1

(*2) 資金コスト=資金原価+支払利息

■ 格付情報(2017年9月末現在)

R&I (格付投資情報センター)	長期 A-	(方向性: 安定的)
	短期 a-1	(CP発行限度額: 4,500億円)
JCR (日本格付研究所)	長期 A	(見通し: 安定的)
	短期 J-1	(CP発行限度額: 4,500億円)

■ 主な取引金融機関

農林中央金庫
 株式会社三井住友銀行
 三井住友信託銀行株式会社
 株式会社三菱東京UFJ銀行
 株式会社みずほ銀行
 三菱UFJ信託銀行株式会社
 株式会社日本政策投資銀行
 日本生命保険相互会社
 信金中央金庫
 全国32のJA信連等

7. 2017年度 TOPICS

TOPICS① 海外における鉄道貨車事業を強化

- ▶ ブラジルにおける三井物産グループの鉄道貨車レンタル会社「MRCLA」傘下のSPCに出資。
- ▶ 今後は北米鉄道貨車リース会社「MRC」（15年3月に出資）とともに、鉄道貨車リース事業のグローバル展開を推進していく。

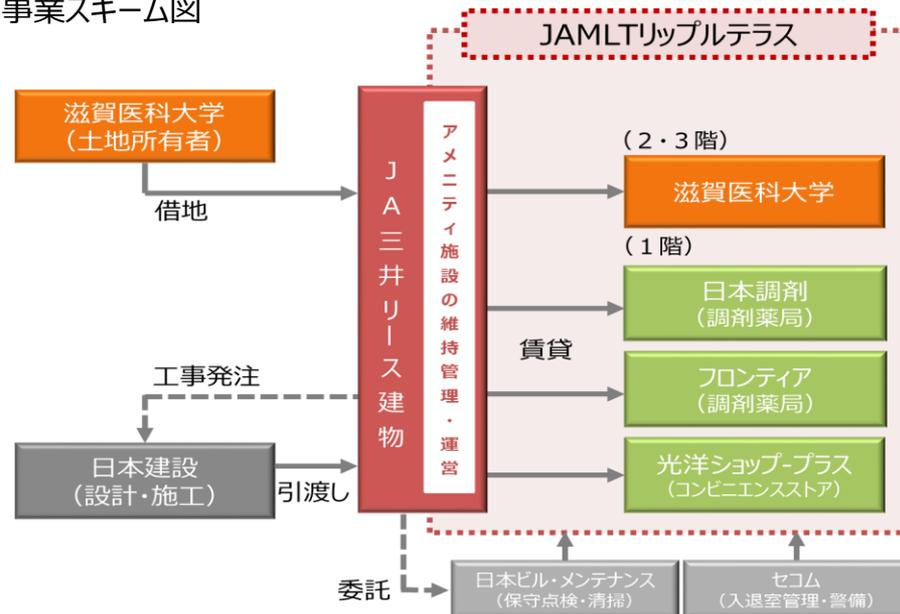


出資先保有貨車写真

TOPICS② 医療分野における新たな事業モデルを構築

- ▶ 全国の国立大学病院で初めて民間資金を活用してアメニティ施設を整備。
- ▶ 今後も、病院患者や地域住民の利便性向上に繋がる本事業モデルの展開を推進していく。

事業スキーム図



7. 2017年度 TOPICS

TOPICS③ICT分野におけるスタートアップ企業との連携を強化

- ジェネシア・ベンチャーズ（デジタルビジネスに特化した、スタートアップ企業への投資ファンド運営会社）が組成する投資ファンドに出資。
- 本ファンドの投資対象は、主として日本・北米・東南アジア地域（主としてASEAN主要国）におけるICT分野のスタートアップ企業。
- 本ファンドへの出資並びにジェネシア・ベンチャーズとの協業を通じて、ICT分野の知見・目利き力を高め、専門性を活かした国内外でのIT関連ビジネスを拡充していく。

本ファンドの概要

名称	Genesisia Venture Fund 1号投資事業有限責任組合
運営者（無限責任組合員）	GV Partners 有限責任事業組合
出資者（有限責任組合員）	株式会社みずほ銀行、みずほキャピタル株式会社、日本ユニシス株式会社のCVCであるキャナルベンチャーズ株式会社が運営する投資事業有限責任組合、当社、東急不動産株式会社、株式会社丸井グループなど、国内の大手事業会社および金融機関
出資総額	約 20 億円（1次募集締切時点）

8. 中期経営計画概要(2017年4月～2020年3月)

「Real Change 2020」

～独自性の追求による事業の発展を通じたプレゼンス向上と企業価値最大化～

基本方針

- I. 専門性を極めたユニークな営業の柱の構築による収益の多様化
- II. 戦略的アライアンス・買収を通じた事業推進力の強化
- III. 経営資源の戦略的配分と成長を後押しする多様な人材力の強化
- IV. 企業の成長基盤となる「規律あるマネジメント態勢」の確立

◆戦略分野

◆注力分野



定量目標

	2017年3月期 (実績)	2020年3月期 (目標値)
税引前当期純利益	238億円	300億円
ROA※	1.53%	1.6%
営業資産残高	14,616億円	19,000億円

※信用コスト控除前営業利益/営業資産残高 (%)

添付資料

四半期連結損益計算書

自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日

(単位:百万円)

科 目	金	額
売上高		217,626
売上原価		196,377
売上総利益		21,249
販売費及び一般管理費		11,276
営業利益		9,972
営業外収益		
受取利息	14	
受取配当金	198	
持分法による投資利益	167	
その他	27	408
営業外費用		
支払利息	152	
社債発行費	108	
為替差損	168	
その他	0	429
経常利益		9,950
特別利益		
固定資産売却益	10	
投資有価証券売却益	0	10
特別損失		
固定資産除売却損	1	1
税金等調整前四半期純利益		9,959
法人税等		2,661
四半期純利益		7,298
非支配株主に帰属する四半期純利益		95
親会社株主に帰属する四半期純利益		7,202